

令和3年度第1回博物館協議会 議事要録

日 時 令和4年3月23日（水） 10:00～11:30

場 所

出席者 【委員】小長谷会長、前原副会長、青木委員、法月委員、平野委員、松村委員、太田委員
【事務局】博物館 又平館長、絹村課長補佐、朝比奈主任学芸員、曳地学芸員
※傍聴者なし
以上、11人

1 開会（10:00）

2 委嘱状の交付

3 又平館長挨拶

4 議事

(1) 報告事項

①市役所の組織再編成による博物館課の移管について

◆質疑

【会 長】 組織の業務と人員の増員について詳しく教えてほしい。

【事務局】 文化財係の仕事として、保存と活用のうちの、活用の業務が増える。従来は保存に重点を置く業務であった。また、来年度に学芸員を2名採用する予定である。博物館係に1名、文化財係に1名が配属になる。昨年度より学芸員が1名減っているなので、実質1名の増員である。

【委 員】 博物館法の改正に伴う、観光・活用の活性化だが、一部の専門職には不評な改正である。従来は保存・研究の軸足がぶれないように、活用をしてほしい。

【委 員】 教育委員会から市長部局に移ることにより、観光面での役割も求められることが予想される。しかし、博物館は島田市の歴史文化の拠点、発信地である役割を忘れずに、地に足を付けた活動をこれからも続けてほしい。

【事務局】 観光文化部の所属になるが、博物館課としては観光に特化するつもりは

ない。保存と継承を第一の目的にしながら、活用をしていく。その方向性がぶれることは無い。

②令和3年度事業経過報告について

ア.入館者及び観覧料収入

イ.講座・体験学習等の開催状況

◆質疑

【委員】 本館に比べて分館の入館者が伸び悩んでいる。何か対策をしているのか。
「八木幾朗 墨画考」は特に分館の展示が良かったため、全員に見てもらえないのは残念である。

【事務局】 本館から分館へ人が流れるように、受付窓口で案内をしている。

【委員】 「本館」「分館」という言い方に、分館なら行かなくてもいいか、という印象を受ける。行かないと損に感じるような、名称に変更してみたらどうか。

【副会長】 教育機関の来館のうち、市外の来館はどのような目的で来ているのか。

【事務局】 昨年に引き続き、県内での修学旅行の需要があった。熱海市内の学校も見学に訪れた。

【副会長】 県内での歴史学習の需要が増えているため、藤枝や掛川など近隣市町と共にプロモーションしてはどうか。

【会長】 以前、藤枝市立郷土博物館と共同企画で香川元太郎展を行った。このように他館と協力する企画をしてほしい。

【事務局】 本年度は、二川本陣資料館に海野光弘の作品を、藤枝市郷土博物館に浮世絵を、それぞれ貸し出した。

ウ.企画展及び収蔵品展の状況

【委員】 「八木幾朗 墨画考」の無料観覧者数が多いのは何故か。

【事務局】 文化の日無料開放の日に大勢の来館者が来た。天気にも恵まれ、いいイベントになった。無料の人数が多い時は、イベントに絡んでいるか、もしくは、小中学生の入館者が無料でカウントされている。

③常設展示室リニューアル事業について

【副会長】 (川越し街道賑わい創出事業) 川越し街道を令和5年より工事をするというが、元にする昔の記録はあるのか。雰囲気がいい、石畳舗装の道路など作ってみてはどうか。

【事務局】 分間延絵図などを参照する予定である。アスファルトの色を土色にカラー舗装したり、景観を守りながら街道の賑わい創出を目指したりする。以前の東海道に即した形をめざして整備を行う予定である。残念ながら、当時の資料から石畳であった記録はない。土道であったことがうかがえるため、石畳舗装にする予定はない。

(2)協議事項

①令和4年度展示及び事業計画について

ア. 博物館本館・分館展示計画

イ. 講座・体験学習等

【副会長】 分館の日本家屋の防犯について教えてほしい。もし防犯体制がしっかりしているのなら、博物館収蔵の屏風を展示したり、生け花を展示したりしてみるのはいかがでしょうか。1年間ずっと海野光弘作品の展示でよいのだろうか。

【委員】 日本家屋は、防犯上の問題や、粉塵、紫外線などの環境的な制約があるため、高価なものを飾るのに制約がある。だが、やり方によっては、活用の余地があるだろう。

【委員】 オープンアトリエは、本年度の版画講座の受講者がまさに望んでいた講座である。このようにイベントが発展していくのは喜ばしい。展覧会名のうち「日和っている」というのは、難しく意味が伝わりにくい。

【事務局】 若い人たちに興味を持ってもらうために、人気の漫画・アニメのセリフを引用して「日和ってる」という言葉を使った。若い人たちは、聞いたらピンとくるだろう。名前負けしないよう、展示の企画もいいものにした。

【委員】 川越遺跡内にも、京都や浅草のように、和服で歩く文化が欲しい。和服の人は入館料を減免したり、分館でお茶が飲めたり、心がホットするような要素を増やしてほしい。

【事務局】 「しまだきものさんぽ」という市民主宰の団体がある。そこで着物着付けのサービスを行っており、そのまま街道を着物で散策できる。緑茶を飲むサービスは、緑茶化計画のなかで既に企画がある。着物での来館者への減免は、櫛かんざし展の時に単発で行ったことがある。

【委員】 分館のミッションとして、海野光弘の作品の啓発が挙げられるが、それと同時に、版画を広める役割があるだろう。そのため、海野作品だけではなく、銅版画など、展示の幅を広めてほしい。

【委員】 杉山新一さんの挿絵展示の企画が出ていたような気がするが、計画から無くなっている。今後開催する予定はあるのか。

【事務局】 令和4年度の開催は本館30周年等があり、杉山新一展は見送った。令和6年度以降に展示計画案として検討したい。

5 その他

【委員】 朝顔の松の裏に田中波月の句碑がある。分かりにくい場所にあるので、紹介する看板を作ったらどうか。

【会長】 開館30周年やリニューアルが、博物館の方針の革新へのきっかけになるので、うまく活用してほしい。開館当初は、児童画展などを行っていた。市民からいろいろ公募して、関わりを持ってほしい。

【委員】 ロシア軍のウクライナ進行により、地方博物館が攻撃されたり、作品が破壊されたり、世界遺産や美術学校が攻撃対象になる危険がある。このような国際情勢にも気を配るべきである。ICOM国際博物館協議会の際に、博物館で行えるSDGsの問題定義が出た。今年は8月にチェコのプラハで開催される予定である。SDGsの問題は世界基準のアジェンダとして地方の博物館にも問われる。島田市博物館の取り組みも必要とされるだろう。

【委員】 最近「ヒストピア島田」の名称が聞かれない。

【事務局】 「ヒストピア島田」は無くなっていない。今後のリニューアルや街道整備事業の中で、今後の活用について検討を重ねていく必要があるだろう。

市民公募委員2名が今回で任期が満了となるので、松村委員、太田委員から一人ずつ感想を述べてもらった後、博物館協議会を終了した。